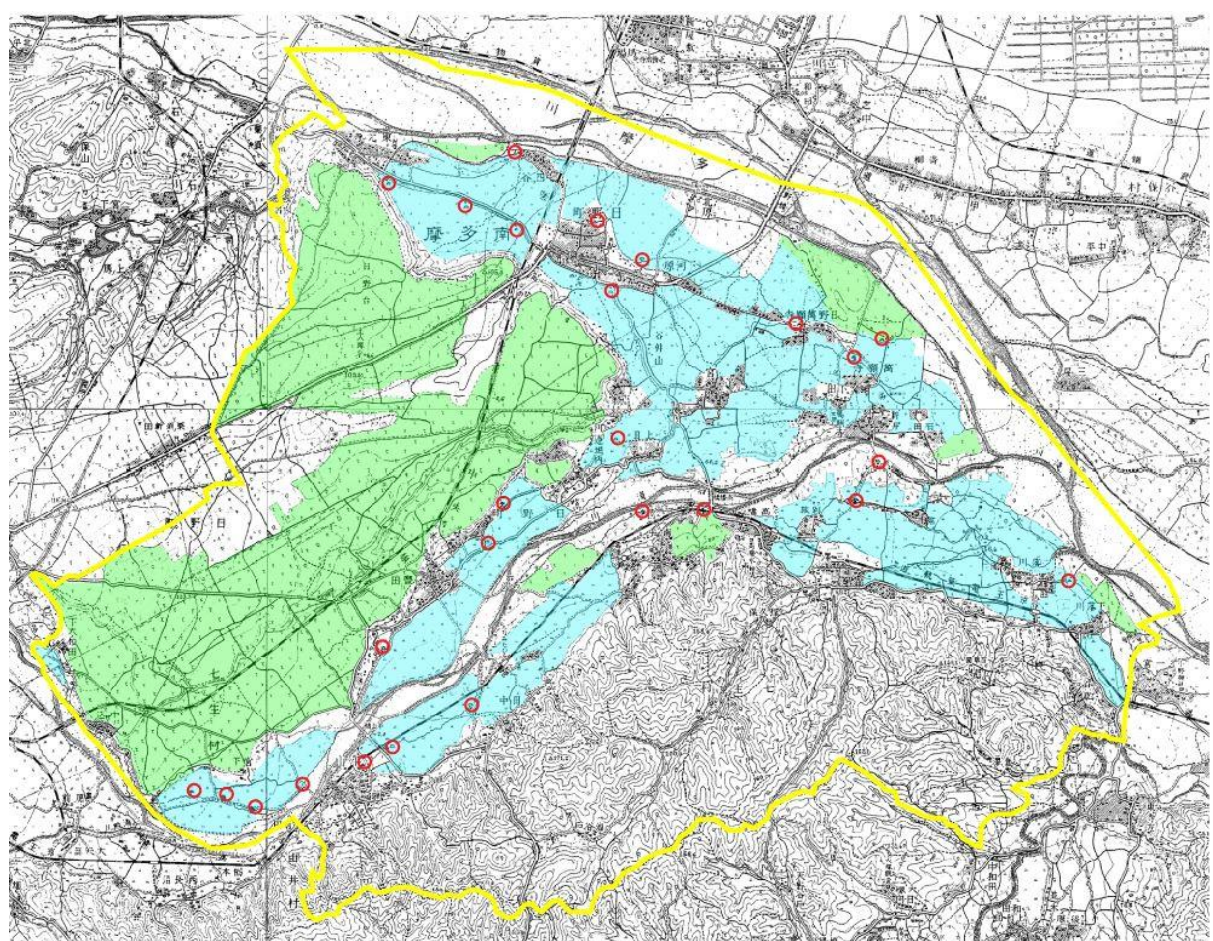


日野市の土地利用の変遷

日野市は 7000 年の定住の歴史があり、江戸時代には甲州街道の宿場町として栄えていた。およそ 100 年間で大きく変化した土地利用を、地形図と航空写真、土地利用の変化が確認できる資料を用いて、過去の状況と課題の整理を行った。

【明治期～昭和初期】戦前の農村の風景を残す「宿場町」



■ : 桑畑の分布 ■ : 田の分布 ○ : 水車

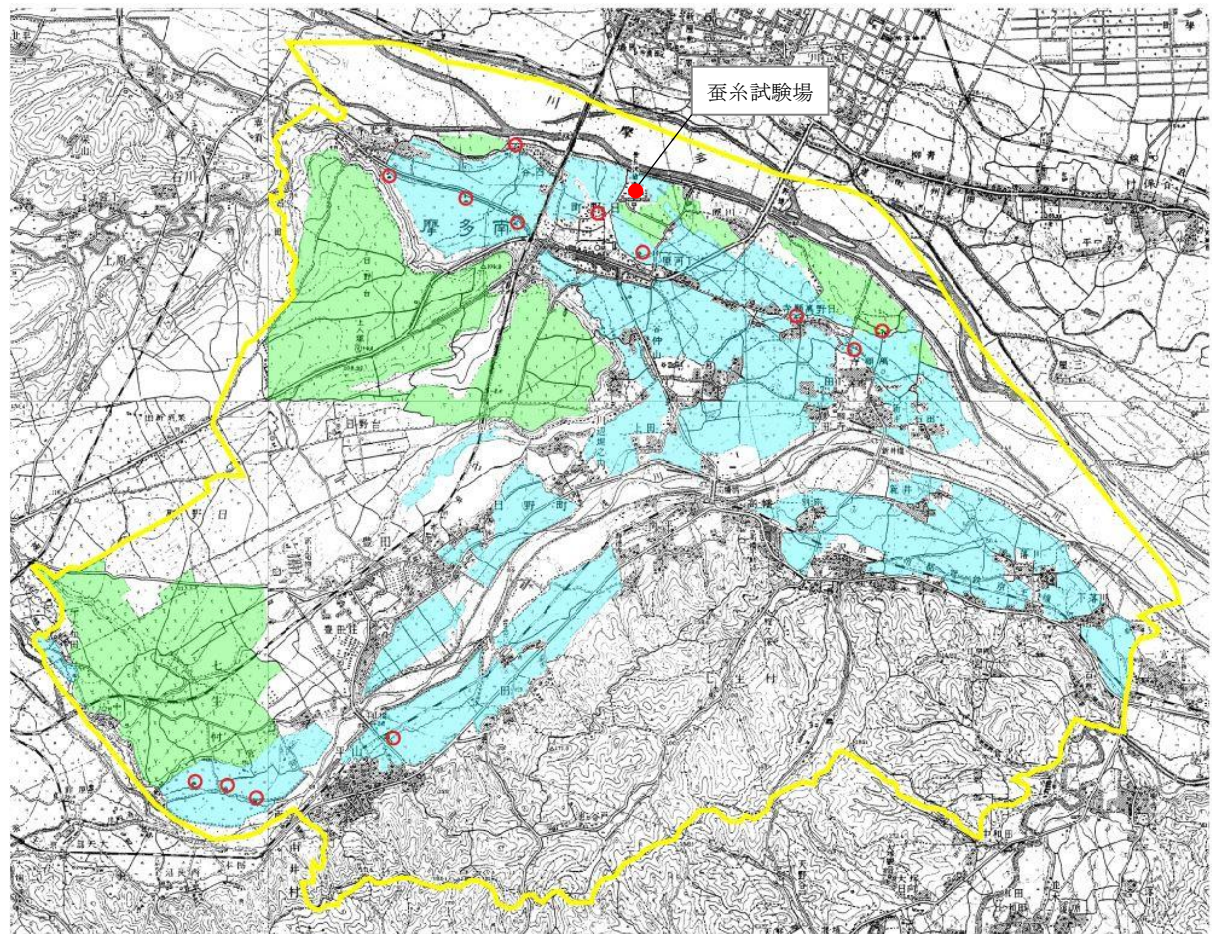
1929～1937 年（昭和 4～12 年）の地形図

- ・日野の用水は 450 年の歴史があり、年間通水の水利権がある。
- ・川の産物としてアユは有名であり、江戸時代には「鮎は日野」と言われていた。
- ・1889 年（明治 22 年）に中央線が、1925 年（大正 14 年）には京王線が開通した。
- ・1901 年（明治 34 年）に日野町と桑田村が合併した。
- ・大正時代は米・繭ともに有数の産地となり、「多摩の米蔵」と呼ばれていた。

<状況>

- ・台地の上に集落がなく、周辺は多くが桑畑であった。
- ・低地は主に田として利用されていた。
- ・用水の豊富な水を活かして、低地には水車が多く設置されていた。

【昭和中期】開発の始まり



■ : 桑畑の分布 ■ : 田の分布 ○ : 水車

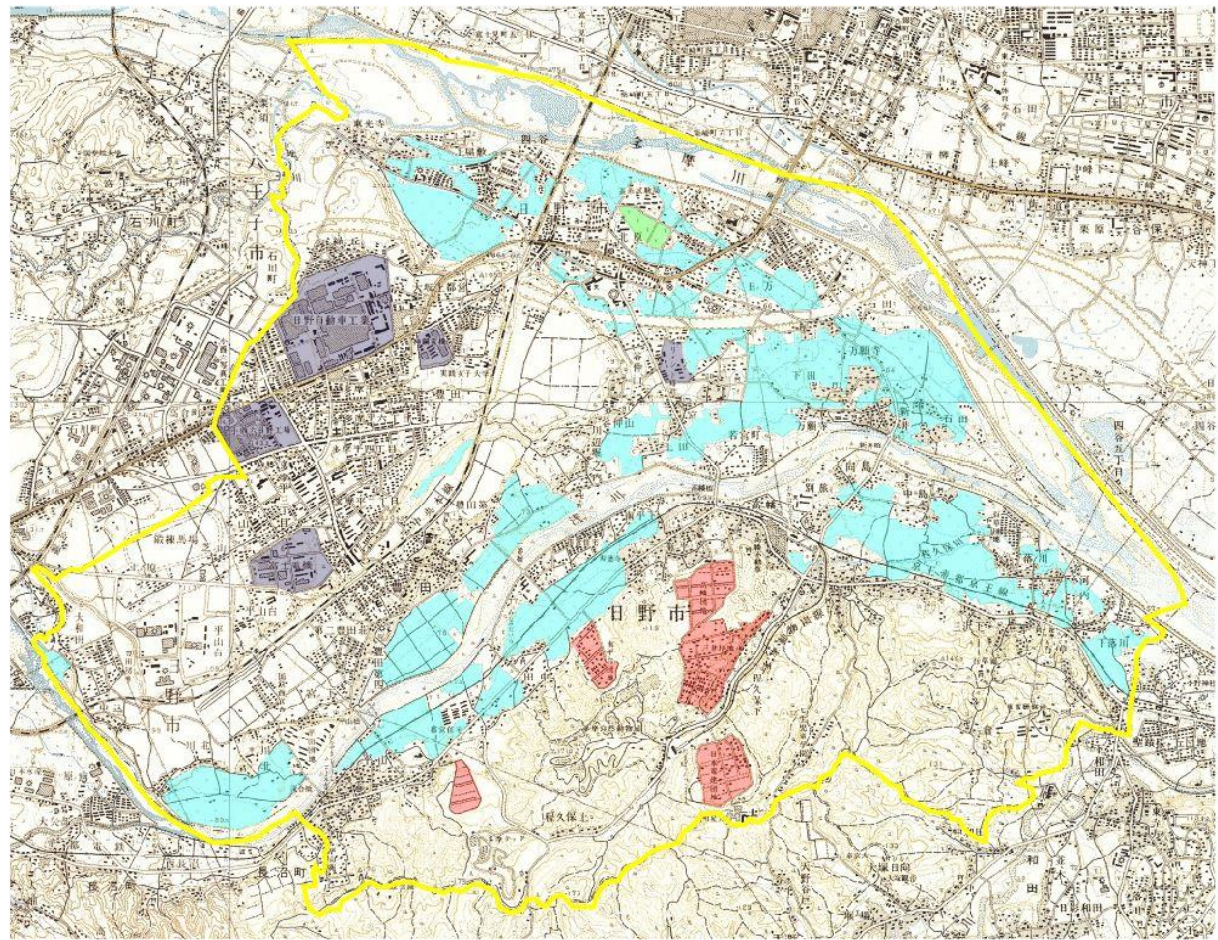
1948～54 年（昭和 23～29 年）の地形図

- ・ 1928 年（昭和 3 年）に仲田に蚕糸試験場ができた。
- ・ 1958 年（昭和 33 年）に日野町と七生村が合併し、新しい日野町となった。

＜状況＞

- ・ 台地の桑畑が拓かれ、学校や病院、工場の進出が確認できる。
- ・ 桑畑の減少は確認されるが、蚕糸試験場もあり桑畑はまだ大面積に広がっている。
- ・ 低地の市街地について、目立った拡大は確認できない。
- ・ 水車の数は減少している

【昭和後期①】日野五社を代表とする「工業都市」



■：市街地化した多摩丘陵 ■：工場の位置 ■：桑畑の分布 ■：田の分布

1966 年（昭和 41 年）の地形図

- ・ 1935 年前後にかけて、日野五社をはじめとする企業が日野市に進出した。
- ・ 1963 年（昭和 38 年）に市政が施行され「日野市」となった。
- ・ 1960 年前後から多摩平団地をはじめ、京王平山住宅、百草・高幡台団地等が供給された。

＜状況＞

- ・ 台地の上は工場が進出し、土地区画整理や団地の供給が行われた。
- ・ 多摩丘陵は団地や宅地の造成のために開発がはじまった。
- ・ 低地の田も市街地化が進んでいる。
 - 【課題】日野らしい農地景観の減少
- ・ 1966 年の地形図では桑畑はわずかに確認できる限りである。
- ・ 団地や宅地の立地に伴い、人口が急激に増加した（図 1）。

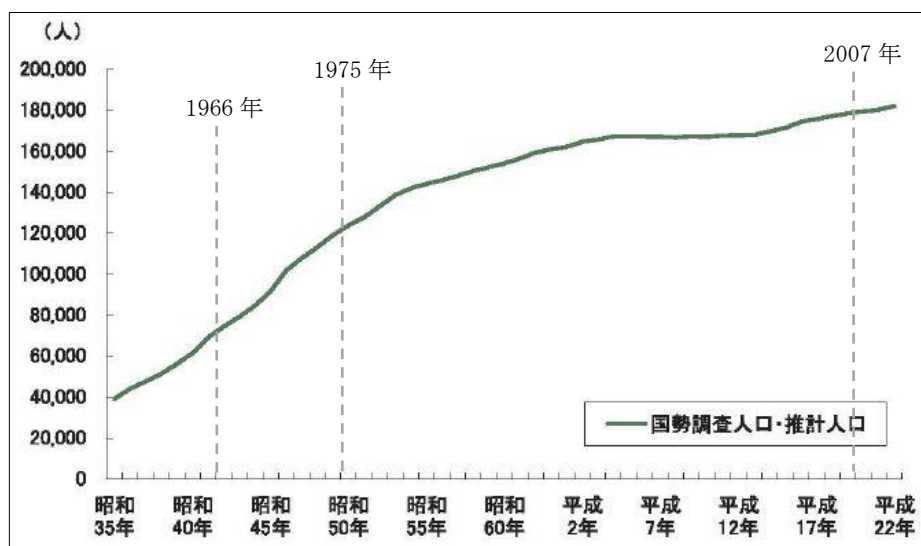
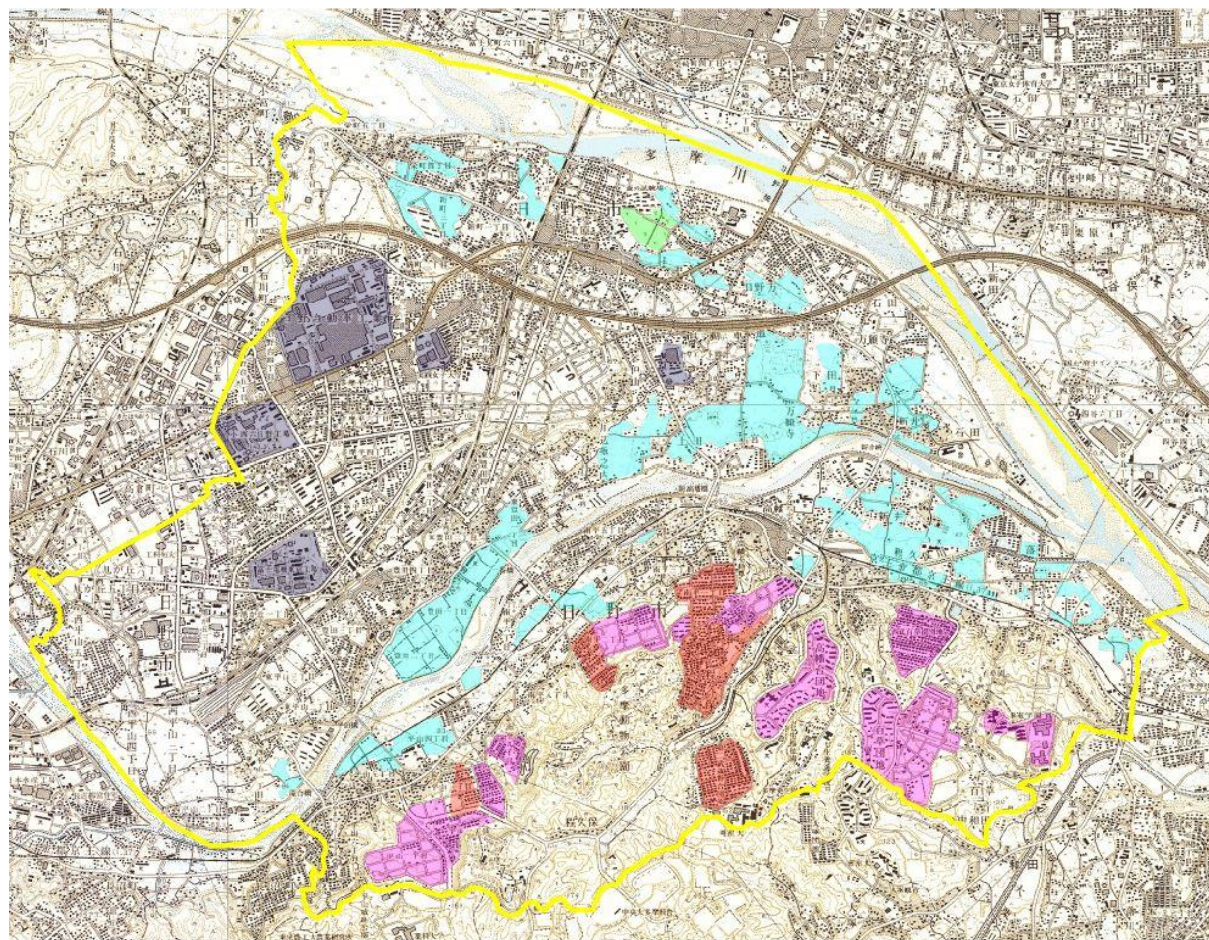


図 1 人口推移（国勢調査人口・国勢調査に基づく推計人口）

【昭和後期②】市街地化の進行



■ : 1966 年時点で市街地化した多摩丘陵 ■ : 1975 年時点で市街地化した多摩丘陵
■ : 工場の位置 ■ : 桑畑の分布 ■ : 田の分布

1975 年（昭和 50 年）の地形図

＜状況＞

- ・台地と低地で共に宅地化が進行している。
- ・多摩丘陵は団地や宅地造成のため、さらに開発が進んだ。
- ・田の減少が続いている。
- ・1981 年には低地に細かく水路網が張り巡らされていたことが確認された（図 2）。

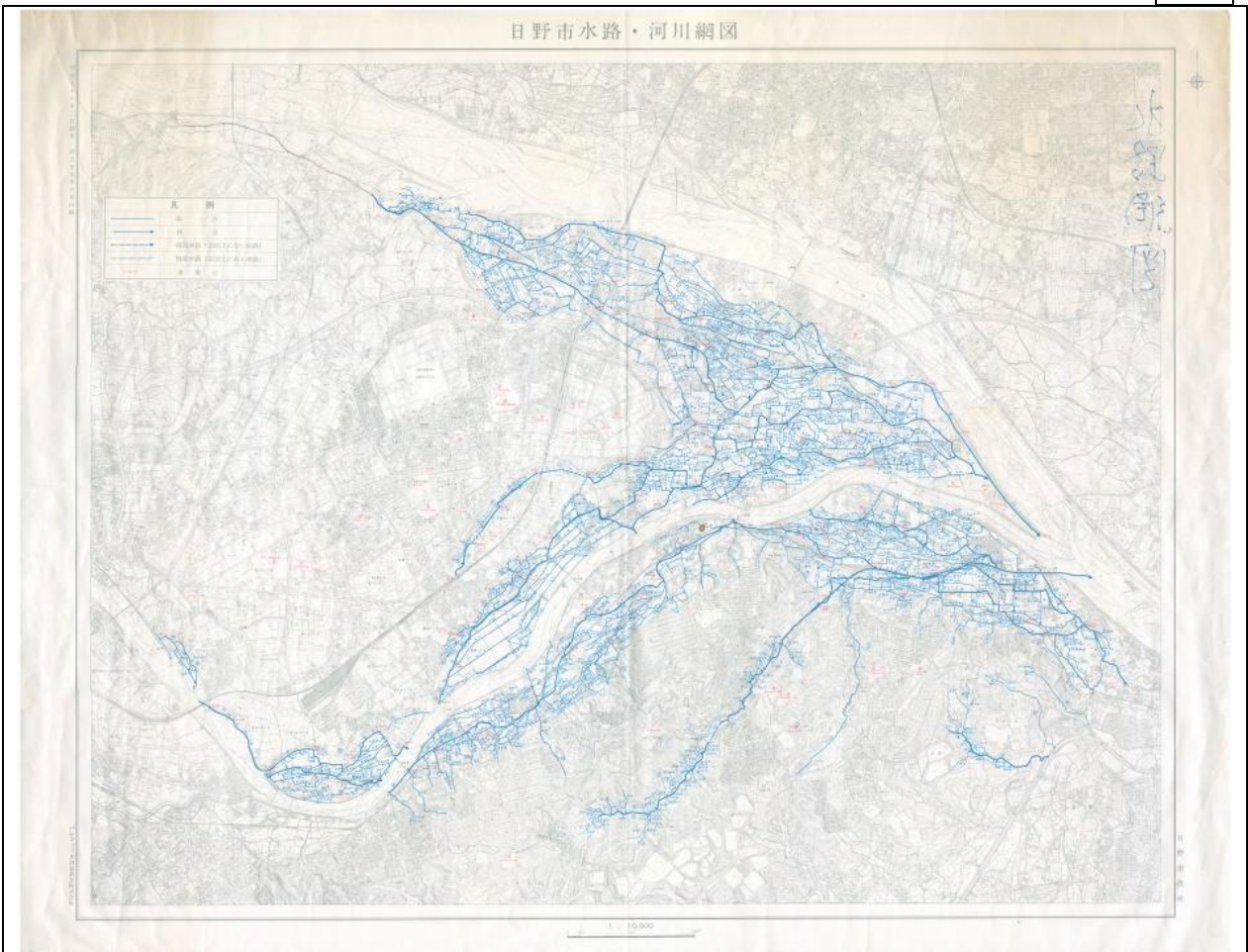
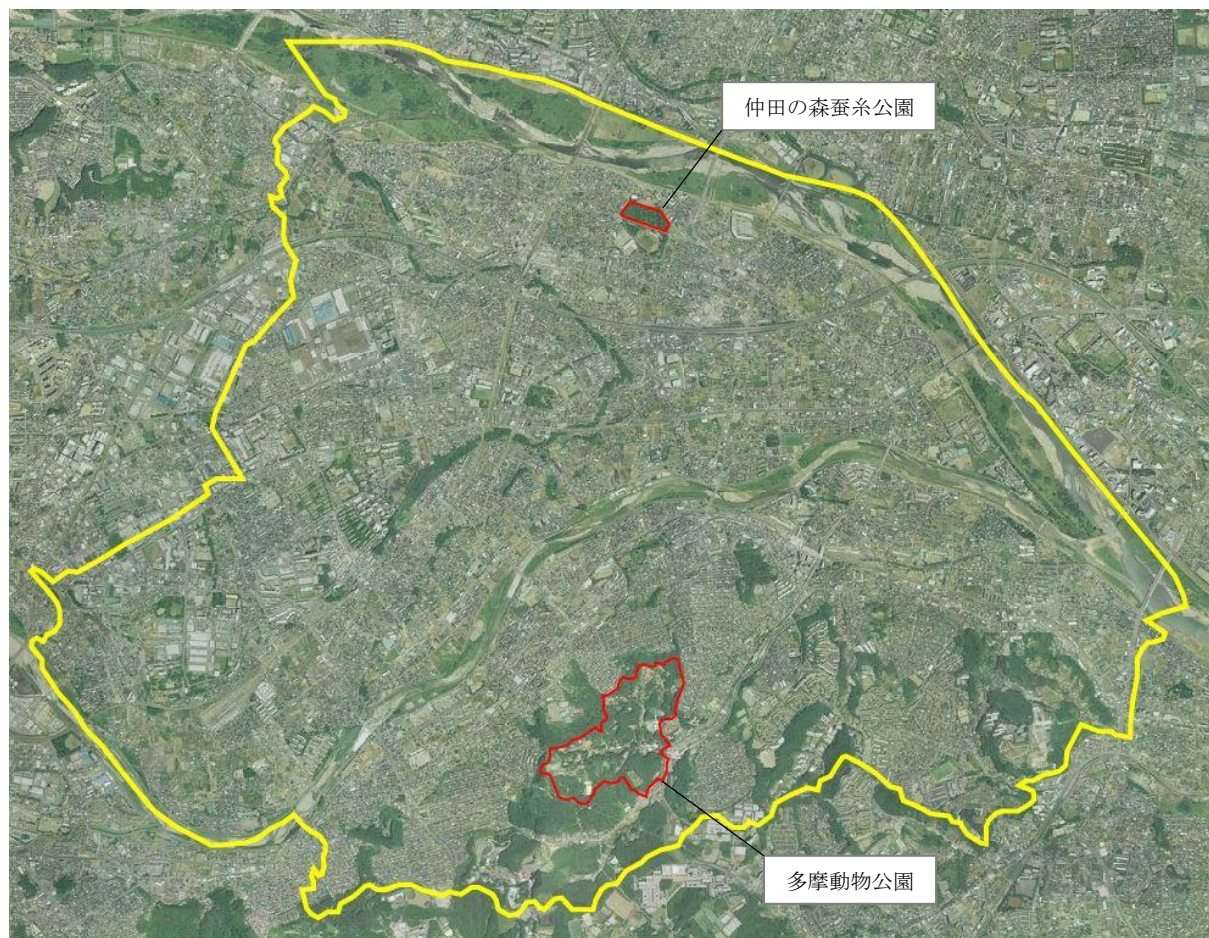


図2 日野市水路・河川路網 1981 年

【平成期】首都圏の「住宅都市」



2007 年（平成 19 年）の航空写真

<状況>

- ・多摩丘陵は多摩動物公園周辺を除いて市街地化がさらに進行した。
→【課題】丘陵地の樹林環境減少
- ・多摩丘陵のみどりは分断化しつつある。
→【課題】丘陵地の分断化
- ・大きなみどりは崖線斜面、多摩丘陵、多摩川、浅川に残っている。
→【課題】みどりの軸となるエコロジカルネットワークの形成
- ・蚕糸試験場は「仲田の森蚕糸公園」として緑が残されている（現在は一部、市民の森ふれあいホールとなっている）
- ・みどりを構成する緑は減少が続いている（図 3）。
→【課題】構造物被覆地の増加
- ・農地（田・畑）はわずかに残っている（図 4）。
→【課題】農地の保全
- ・用水路の延長は減少が続いている（表 1）。
→【課題】用水の保全・新たな利用方法の検討

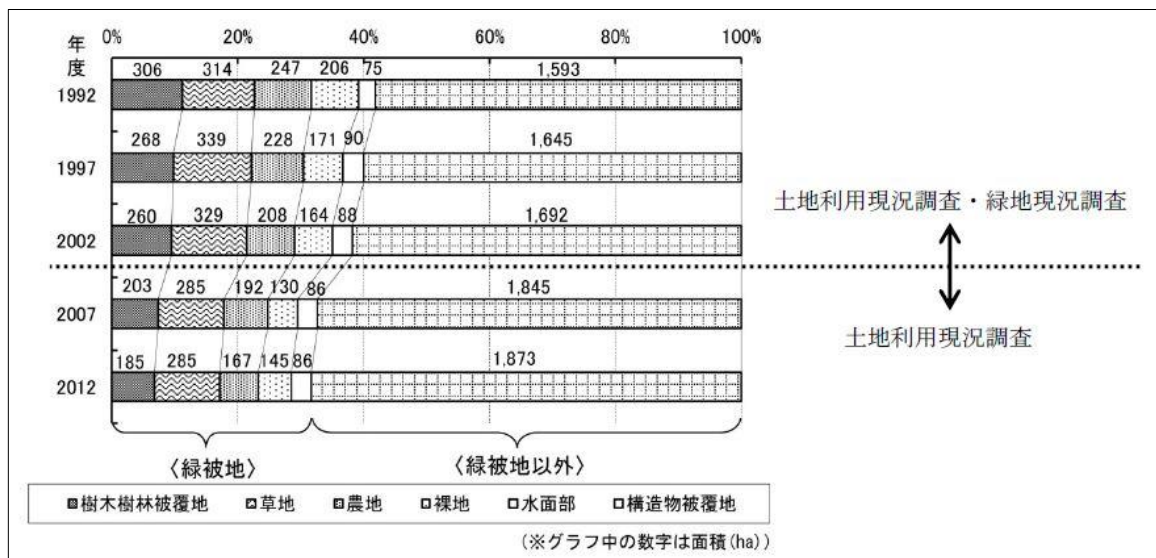


図 3 緑の構成比率 (2013 年度日野市環境白書)

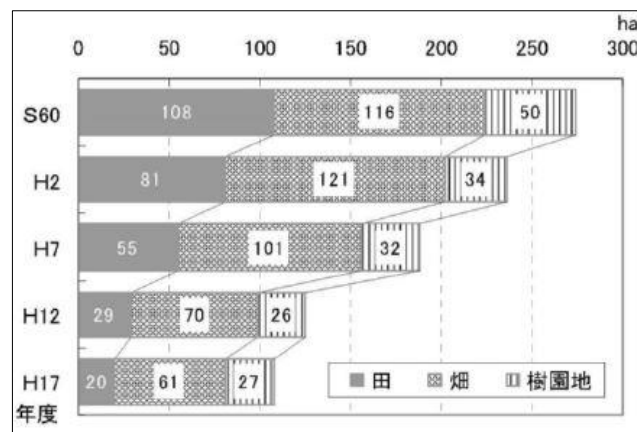


図 4 耕地面積 (農林業センサス)

(単位: km)

調査 実施 年度	流水有り (水路あり)		流水無し (用地のみ)	廃滅
	平成3年度	平成21年度		
距離	177	116	55	6
率	100%	65.5%	31.1%	3.4%

表 1 用水路延長 (水路路線図及び河川台帳作成業務調査報告書)